

## 米国 I S M製造業景気指数 (12年11月)

発表日：2012年12月3日 (月)

～「財政の崖」への懸念、ハリケーン被害等により製造業部門は再び縮小も軽微な調整～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

### I S M製造業景気指数 は49.5と前月比2.2% ポイント低下

11月のI S M製造業景気指数は、49.5と前月比2.2%ポイント低下した（市場予想中央値51.4、当社予想50.8）。また、拡大縮小の分岐点である50を3ヵ月ぶりに下回っており、製造業部門が縮小したことを示唆している。11月の連邦議会選挙でねじれ議会が続くことになったことを受け「財政の崖」など米経済政策への先行き不透明感が強まったほか、ハリケーン「サンディ」による災害等により、新規受注の増加幅が縮小したうえ、雇用や在庫が減少し、全体を押し下げた。総合指数への構成項目別の寄与度では、生産（前月比+0.3%ポイント）、入荷遅延（前月比+0.1%ポイント）が押し上げ寄与となった一方、在庫（前月比▲1.0%ポイント）、新規受注（前月比▲0.8%ポイント）、雇用（前月比▲0.7%ポイント）が押し下げ寄与となり、総合指数は前月比▲2.2%ポイント低下した。

I S M製造業景気指数は、3ヵ月ぶりに50を下回ったものの、小幅下回った程度であり製造業の軽微な調整を示唆している。

I S M製造業景気指数の推移

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
12/01	54.1	57.6	55.7	54.3	49.5	53.6	52.5	55.5	55.0	52.5
12/02	52.4	54.9	55.3	53.2	49.5	49.0	52.0	61.5	59.5	54.0
12/03	53.4	54.5	58.3	56.1	50.0	48.0	52.5	61.0	54.0	53.5
12/04	54.8	58.2	61.0	57.3	48.5	49.2	49.5	61.0	59.0	53.5
12/05	53.5	60.1	55.6	56.9	46.0	48.7	47.0	47.5	53.5	53.5
12/06	49.7	47.8	51.0	56.6	44.0	48.9	44.5	37.0	47.5	53.5
12/07	49.8	48.0	51.3	52.0	49.0	48.7	43.0	39.5	46.5	50.5
12/08	49.6	47.1	47.2	51.6	53.0	49.3	42.5	54.0	47.0	49.0
12/09	51.5	52.3	49.5	54.7	50.5	50.3	44.0	58.0	48.5	49.5
12/10	51.7	54.2	52.4	52.1	50.0	49.6	41.5	55.0	48.0	47.5
12/11	49.5	50.3	53.7	48.4	45.0	50.3	41.0	52.5	47.0	48.0

(出所) I S M : the Institute for Supply Management

### 拡大した業種は6業種 に減少

活動の拡大した業種数は、全18業種中6業種（前月8業種）と減少した一方、縮小した業種は11業種（前月8業種）に増加した。拡大した業種は、石油・石炭、紙製品、家具・同関連製品、電気機器、食品・飲料・タバコ、コンピューター・電子機器。

新規受注の拡大した業種数は7業種（前月5業種）に増加した。新規受注で拡大した7業種（9業種が縮小）は、石油・石炭、紙製品、プラスチック・ゴム、一般機械、コンピューター・電子機器、電気機器、家具・同関連製品。

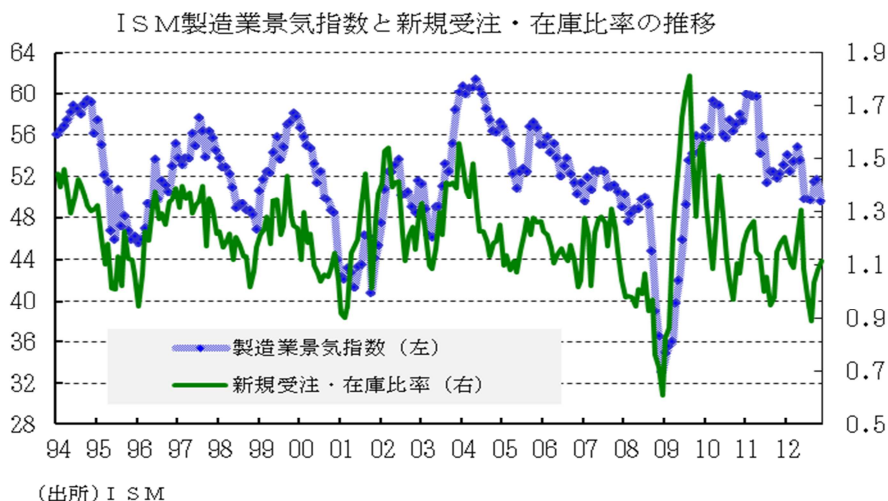
本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であると限りません。

生産は8業種が拡大した。生産で拡大した8業種（7業種が縮小）は、木材、電気機器、紙製品、食品・飲料・タバコ、家具・同関連製品、その他製造業、コンピューター・電子機器、加工金属。

(注) 下線は拡大を続けた業種

### ISM製造業景気指数は 早期に50を回復する見込み

今後に関しては、世界経済減速や「財政の崖」の先行き不透明感の影響を受けるものの、米国企業が過剰な在庫や雇用を抱えていないほか、緩やかながらも持続する米国内需要の成長などに下支えされよう。また、トレンドの変化に先行する新規受注・在庫比率が上昇しており、ISM製造業景気指数は製造業部門の拡大を示す水準を早期に回復すると予想される。



### 輸出の減少を示唆

輸出受注DIは、11月に47.0と前月比1.0%ポイント低下し、50を下回ったまま。ユーロ圏、日本、韓国、台湾などの製造業部門の縮小、世界経済の減速により、今後米国の輸出が前年比ベースで減少に転じる可能性が高い。オバマ政権による5年で輸出倍増計画の達成に黄色信号が点灯している。

### 各国の米国向け輸出は 鈍化する可能性

輸入DIは、11月に48.0と50を4ヶ月連続で下回ったうえ、前月比0.5%ポイント低下した。また、新規受注DIが50.3と50を上回ったものの、前月から3.9%ポイント低下したことから、日本など先進国のほか、BRICS等の新興国の米国向け輸出の拡大ペースは鈍化する可能性が高い。

### 雇用DIは48.4と製造業雇用の減少を示唆

雇用DIは、11月に48.4と前月比3.7%ポイント低下したことから、11月の製造業部門雇用者数の減少を示している。この雇用減少の動きは一時的となる可能性が高いものの、米国経済や政策の先行き不透明感、価格競争の激化によるコスト削減圧力を背景に、製造業部門での雇用の回復ペースは鈍い状況が続こう。

### 仕入価格DIは52.5と低下しており、川中でのインフレ圧力は弱いまま

仕入価格DIは、11月に52.5と前月比2.5%ポイント低下し、川中でのインフレ圧力の再低下を示唆している。水準も低いことから、川中でのインフレ圧力は弱いままと判断される。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。